



# 学校だより 小雀

ホームページ：<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kosuzume/>

令和2年5月1日発行  
5月号  
横浜市立小雀小学校

## やる気スイッチ

大切におもうちからこそ今は離れよう

校長 今野 敏晴

「山が笑う」という言葉があります。俳句などでは、春の季語として使われる言葉で、新芽がでたり、花が咲いたりして山が色とりどりに変わっていくときの様子をいうそうです。私は、淡いパステル色の山の彩りが濃い色に刻々と変わるこの時期の山を眺めるのが大好きです。しかし、今年に限っては、学校再開ができないにもかかわらず、季節が変わっていくことに不安も覚えます。

始業式の日、令和2年度が始まり「やる気いっぱい」になっている子どもたちに向け、そのやる気が一年間ずっと続くよう、そして新型コロナウイルスに負けないよう、「やる気スイッチ」の話をしました。やる気を出すためには、脳のほぼ真ん中にある「側坐核」という部分を刺激すればいいことが分かっています。つまり側坐核を上手に刺激すればやる気がでるのだそうです。その方法として、「体を動かすこと」「自分で自分を褒めること」「前向きな言葉をつかうこと」が大切だと話しました。そして、側坐核を刺激するもう一つの方法は、まずやり始めることです。最初はいやでもやり始めるうちにやる気が出てきます。例えば、勉強なら、最初は、漢字や機械的にできる計算問題など、簡単にできそうなものから始めると、だんだんとやる気になってくるそうです。やり始めが肝心です。

我々大人が、子どもたちのやる気のスイッチを押す方法の代表は、「褒めること」です。子どもたちが頑張っている様子やその結果に対して適切に評価すると、心の内側に「モチベーション」となって蓄積し、次に向かうエネルギーへと変化していきます。繰り返し褒めることで、子どもは自分の力でそのエネルギーを燃やすことができるようになります。「あなたならできるよ。」とか「勉強しようと思っているあなたはえらい。」とかやろうと思っていることを褒めることも効果があるそうです。

新型コロナウイルスの感染拡大防止策として打ちだされている臨時休業の影響は計り知れません。「国難」とは言え、多くの子どもたちのメンタル回復、さらには、教育保障を「学校再開」に向けどのように図っていくかも大きな課題となっています。「これからの社会が、どんなに変化していく予測困難な時代になっても、自ら考え、自ら判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現して行ってほしい。そして明るい未来を今生きている我々と共に創っていこう」今年度から始まる新しい学習指導要領には、そうした願いが込められています。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、先行きが不透明な状況が続いています。こんなときこそ、子どもたちのやる気を後押ししながら私たちにできることを一つひとつ着実に進めていくことが大切です。ご理解とご協力をお願いいたします。